

# 輸入検疫で発見された主な病害虫

平成8年に輸入された植物から発見された主な病害虫は下表のとおりである。

工類は相変わらず多いが、本年は、航空貨物で輸入されたアメリカ産野菜から特定重要病害虫のジウイチホシウリハムシが多く発見された。

携帯品での輸入禁止生果実から発見されるミバ

	発見病害虫名	寄主植物別発見回数	輸出国別発見回数	
輸 入 禁 止 対 象 病 害 虫	<i>Ceratitidis capitata</i> チェウカイミハエ (8件)	レンシ(2)ミカン(2)トウモロコシ(2) アセロラ(1)スモモ(1)	イギリス(1)フランス(1)スเปน(1)ベルギー(1) アメリカ(1)カナダ(1)キューバ(1)ナイジェリア(1)	
	<i>Bactrocera dorsalis</i> ミカゴミハエ (271件)	マンゴウ(69)レンシ(40)ハンシロウ(29)ハンレイシ(25) リュウカン(17)トウモロコシ(15)レイシ(14)チンゲン菜(13) モンヒン(10)サトウ(7)スモモ(5)ナツメ(5)他17種(22)	台湾(92)タイ(73)フィリピン(51)インドネシア(14) ベトナム(5)マレーシア(4)ハワイ(3)シンガポール(3) ミャンマー(3)他87種(10)不明(13)	
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> ウリミハエ (11件)	ササゲ(4)ツルレイシ(3)マンゴウ(1)ヒトウリ(1)ヘチマ(1) キュウリ(1)	タイ(5)台湾(4)マレーシア(1)香港(1)	
	<i>Bactrocera tryoni</i> クインズランドミハエ(2件)	イチジク(1)マンゴウ(1)	オーストラリア(1)ニューギニア(1)	
	<i>Cydia pomonella</i> コトリンカ (1件)	リンゴ(1)	ハンガリー(1)	
	<i>Cylas formicarius</i> アリモトキノウムシ (2件)	サツマイモ(1)ハクチョイ生蓮(1)	タイ(1)フィリピン(1)	
	-----			
	特 定 重 要 病 害 虫	<i>Colletotrichum capsici</i> (14件)	ピーマン(1)トウモロコシ(1)ナス(1)	タイ(11)香港(1)ベトナム(1)シンガポール(1)
		<i>Anastrepha ludens</i> ミカゴミハエ(3件)	マンゴウ(2)リンゴ(1)イチゴ(1)	メキシコ(2)不明(1)
		<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミハエ(6件)	マンシロウ(4)マンゴウ(1)チェリモヤ(1)	アメリカ(4)ベルギー(2)
<i>Anastrepha suspensa</i> カリアミハエ(1件)		マンシロウ(1)	アメリカ(1)	
<i>Diabrotica undecimpunctata</i> シウイチホシウリハムシ(58件)		レタス(30)ミズナ(15)ホウレンソウ(6)ハセリ(3)他3種(4)	アメリカ(58)	
<i>Otiorynchus sulcatus</i> キンケクアフトウモシ (8件)		クロハダ(4)ハクチョウ(2)ヒノキ(2)	オランダ(8)	
<i>Pantomorus cervinus</i> フラワーライオン (3件)		アセロラ(3)	ハワイ(3)	
<i>Zabrotes subfasciatus</i> フラメンコライオン (3件)		ライマメ(3)	ミャンマー(3)	
<i>Aleurocanthus woglumi</i> ミカゴクワコナシラミ (2件)		ヒサカキ(1)キンギョ(1)	タイ(1)中国(1)	
<i>Radopholus similis</i> ハナネメクシセンチュウ (10件)		ショウガ(10)	インドネシア(10)	

## 海外のニュース

### 最近インドネシアに侵入した *Liriomyza huidobrensis* (レタスハモグリバエ) について

レタスハモグリバエは、1936年にアルゼンチンで報告されて以来、中央アメリカ、北アメリカ、最近になってヨーロッパへも侵入し、多種類の野菜、花き等に被害を与えている。

インドネシアでは、1994年に西ジャワ州のパレイシヨで初めて発生が確認されてから現在までにスマトラ、ジャワ島の野菜(パレイシヨ、トマト、

マメ類、ニンジン、ホウレンソウ、ワケギ、ネギ、キャベツ等)及び鑑賞用植物等で被害が報告されている。

本種は近似種のマメハモグリバエよりも標高の高い地域で被害が多いとの報告があり、インドネシアでも標高の高い地域のパレイシヨ、ワケギで激しい被害が報告されている。特にパレイシヨでの被害は、メス成虫による葉面の摂食痕及び産卵痕の他に、幼虫による葉肉組織の食害で葉が疫病による被害のように褐変し、最終的に枯死する。このため、激しい場合は約60%の収量減になると見積もられている。

本種は殺虫剤に対する抵抗性が高いことから、天敵導入等の総合防除が提唱されている。



インドネシアにおけるパレイシヨの被害

発行所 横浜植物防疫所  
〒231 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155  
発行人 小林 敏 郎  
編集責任者 今村 毅  
印刷所 内村印刷株式会社